

2018年度 一般社団法人日本社会福祉学会事業報告

(2018年4月1日～2019年3月31日)

2018年度は、社会福祉学分野のさらなる学問的水準の向上を図るため、学術研究集会の開催や学会機関誌の刊行などの活動を行った。さらに、2017年度に締結した日中韓三ヵ国の研究交流の推進に関する覚書に基づき、各国の代表者に加えて自由研究発表者を互いに受け入れるなど、国際的な学術交流をより一層深めた一年となった。大会のあり方や若手・女性研究者への支援のあり方については、前期より引き続き検討を重ね、具体的な施策案の実施に向けた活動を継続した。

I. 学術研究集会、講演会等の開催

1. 全国大会

1) 第66回春季大会報告

「2018年度定時社員総会」開催にあわせて、2018年5月27日(日)に東京通信大学新宿駅前キャンパスで開催した。「外国人への支援～多文化共生社会とソーシャルワーク～」をテーマにシンポジウムを行い、約190名が参加した。

2) 第66回秋季大会報告

2018年9月8日(土)・9日(日)に金城学院大学で「21世紀の社会福祉と『運動性』」をテーマにして開催し、約700名が参加した。大会ホームページで『報告要旨集』および『大会プログラム』を公開するやり方については、会員の理解も深まり、かなり定着したように思われる。また今大会においても、事前に申請した大学院生等の学生会員に対して参加費を免除することとし、73名からの大会参加費免除申請があった。

3) 第67回全国大会に向けての準備

第67回春季大会は、2019年5月26日(日)に東洋大学白山キャンパスで「ソーシャルワークの価値再考—『個人の尊厳』の根拠をどこに求めるか—」をテーマに開催する。

第67回秋季大会は、2019年9月21日(土)・22日(日)に大分大学旦野原キャンパスで「共生社会の構築に向けて～自立と多様性の共存」をテーマに開催予定である。

4) 第68回秋季大会について

2020年度第68回秋季大会は、東北福祉大学(宮城県)で開催することが決定した。

2. 日本社会福祉学会フォーラム

2018年度は、2019年3月9日(土)に北星学園大学(北海道)で、学会の北海道地域ブロックとの共催で「軋む社会とセーフティネット—転げ落ちない社会の構築を目指して」をテーマにしてシンポジウムを行った。参加者は約50名であった。

2019年度開催の第16回フォーラムは中部地域ブロックとの共催で2019年秋頃の開催を予定している。

3. 地域ブロック研究大会

各地域ブロックの研究大会については、各地域ブロックからの事業報告に記載されている。

Ⅱ. 学会機関誌『社会福祉学』その他刊行物の刊行

1. 学会機関誌『社会福祉学』刊行

1) 機関誌編集委員会活動

①機関誌編集委員会構成

2018年度の機関誌編集委員会は以下の16名で構成した（敬称略）。

委員長：柴田謙治（理事）、副委員長：今井小の実（理事）、山田壮志郎（理事）

委員：石川時子、岩崎 香、金子 充、川島ゆり子、空閑浩人、倉持史朗、小泉広子、
小林 理、斉藤雅茂、新保幸男、相馬大祐、村田文世、山井理恵

②機関誌編集委員会開催

2018年度には編集委員会を7月7日（土）、10月7日（日）、1月13日（日）、3月22日（金）の計4回開催した。また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、5月、8月、11月、2月に実施した。

③拡大編集委員会開催

査読委員を含めた拡大編集委員会を第66回秋季大会にあわせて9月8日（土）11：00～12：00に金城学院大学にて開催した。

④機関誌のテキストデータの提供

視覚障害のある会員の要請に応じて、『社会福祉学』のテキストデータの提供を行った。

2) 機関誌『社会福祉学』刊行

巻／号	59-1	59-2	59-3	59-4
発行月	2018年5月	2018年8月	2018年11月	2019年2月
論文	7	7	5	6
実践報告	1			
調査報告	2	1	2	
資料解題				
書評	2	2	3	1
文献紹介	2		1	1
学会回顧・展望			9	
全国大会等				5
総ページ数	160	128	264	120
印刷部数	5,000	4,900	4,900	4,850

2018年度には和文誌を4回（59-1／59-2／59-3／59-4）発行した。なお英文誌『Japanese Journal of Social Welfare』については、論文3本の投稿があったが、いずれも掲載不可となった。

2. 地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックの機関誌発行状況は、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

Ⅲ. 研究の奨励および研究業績の表彰

1. 日本社会福祉学会 学会賞

1) 学会賞審査委員会の開催

2018 年度学会賞の審査委員会は、白澤政和委員長、上野谷加代子委員、黒田研二委員、小林良二委員、三本松政之委員、永岡正己委員と学会賞審査委員会担当理事（大嶋巖理事：2018 年度定時社員総会まで、岡部卓理事：2018 年度定時社員総会終了後より）が構成し、2017 年 1 月から 12 月までに刊行された図書及び論文を審査した。

2) 審査対象研究業績

2017 年 1 月から 12 月までの刊行された研究業績の内、会員からの推薦 10 点、国立国会図書館検索システムから抽出した 3,541 点、「アマゾンリサーチ検索」から抽出した 9 点より、会員業績の 40 点を審査対象とした。

論文部門は、自薦された 3 本に、2017 年に本学会機関誌（第 57 巻 4 号、第 58 巻 1～3 号）に掲載された論文 28 本を加えた 31 本を審査対象論文とした。

3) 審査の経緯

第 1 回審査委員会（2018 年 3 月 18 日開催）

審査対象となる研究業績を絞り込み、40 点の単著、31 本の論文を第 1 次査読対象とした。

第 2 回審査委員会（2018 年 5 月 27 日開催）

第 1 次審査対象図書の査読結果を報告し、第 2 次審査対象として、4 点の単著、4 本の論文を選考し、委員全員で査読することとした。

第 3 回審査委員会（2018 年 7 月 16 日開催）

第 2 次審査対象図書の査読結果を報告し、総括的審査の結果、全会一致で以下の通り、奨励賞 2 名の授賞者を決定した。

○奨励賞（単著部門）

駒崎 道『GHQ「児童福祉総合政策構想」と児童福祉法 ―児童福祉政策における行政間連携の歴史的課題』（明石書店、2017 年 9 月 25 日刊）

永野 咲『社会的養護のもとで育つ若者の「ライフチャンス」 ―選択肢とつながりの保障、「生の不安定さ」からの解放を求めて』（明石書店、2017 年 12 月 10 日刊）

4) 学会賞授賞式

2018 年 9 月 8 日、第 66 回日本社会福祉学会秋季大会（於：金城学院大学）において授賞式が行われ、白澤政和委員長の挨拶及び経過報告の後に、金子光一会長より駒崎道氏、永野咲氏にそれぞれ奨励賞が授与された。

2. 地域ブロックへの研究奨励

「日本社会福祉学会地域ブロック助成金配分基準」に基づいて、各地域ブロックの研究事業を支援した。各地域ブロックの下「地域部会委員会」が中核となり、事業計画に基づいて活動が展開された。その事業内容は各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

IV. 関連学術団体との連絡および協力

1. 日本社会福祉系学会連合

会長として本学会の木原活信副会長（任期：2018年5月～2020年5月）を、事務局長として和気純子理事（任期：2018年5月～2020年5月）を、運営委員として小櫃俊介会員と後藤広史会員を派遣している（任期：2018年5月～2020年5月）。また、本学会の学会事務局と同様に、日本社会福祉系学会連合として、加盟学会との連絡、資料作成、経理処理等の事務局業務について（株）国際文献社と委託契約を締結している。

2019年1月14日（月）に日本学術会議講堂にて「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」というテーマでシンポジウムを開催した。このシンポジウムについては報告書を作成し、学会連合ホームページに掲載予定である。また、災害福祉研究の成果を蓄積し、災害福祉学の構築に寄与する観点から、学会連合ホームページ内に「災害福祉アーカイブ」がつけられた。本学会としてもこの取り組みを支援するため、学会ニュース等において情報収集のための広報活動に協力した。

2. その他の関連団体との連携

「社会政策関連学会協議会」「社会学系コンソーシアム」「ソーシャルケアサービス研究協議会」「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」に理事等役員を派遣し、連携に努めた。

V. 国際的な研究協力の推進

1. 韓国を始めとする東アジア諸国との連携及び学術交流

1) 韓国社会福祉学会春季学術大会への派遣

2018年4月20日（金）・21日（土）にシンハン大学にて開催された韓国社会福祉学会春季学術大会に、自由研究発表者6名（5チーム）を派遣した。

2) 中国社会学会社会福祉研究専門委員会「東アジア社会福祉フォーラム」への派遣

2018年10月12日（金）～10月14日（日）に西華大学（中国四川省成都市）にて開催された中国社会学会社会福祉研究専門委員会「東アジア社会福祉フォーラム」に、自由研究発表者3名（2チーム）を派遣した。

3) 2018年度国際学術交流シンポジウムの開催

2018年9月9日（日）に金城学院大学にて開催された第66回秋季大会へ、韓国ならびに中国より招聘者を招き「韓国・中国・日本における社会福祉運動の発達とその特徴」というテーマでシンポジウムを開催した。

4) 日・韓・中3カ国学術交流会議について

第66回秋季大会前日の9月7日（金）に日韓中3カ国協議を開催し、金子光一会長、木原活信副会長／国際学術交流促進委員長、坪洋一事務局長、本郷秀和理事／国際学術交流促進委員会委員、包敏国際学術交流促進委員会委員、郭芳国際学術交流促進委員会委員、金成垣国際学術交流促進委員会委員が出席した。その後、懇親会を行った。

2. 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

2018年9月8日（土）に金城学院大学にて開催された第66回秋季大会において、留学生と国際比較研究のためのワークショップを実施した。

VI. 学会の組織・運営

1. 会員の動向

1) 入会について

2018年度の入会許可者数は、153名である。

2) 会員の動向

2018年度入会者が153名、2018年度退会者が279名で、2019年4月1日現在の会員数は4,503名である。

3) 名誉会員数

2019年5月1日現在の名誉会員は下記の14名である（50音順、敬称略）。

秋山 智久	阿部 志郎	井岡 勉	右田 紀久恵	太田 義弘	岡本 栄一
岡本 民夫	忍 博次	柏木 昭	児島 美都子	杉村 宏	田端 光美
中垣 昌美	古川 孝順				

2. 一般社団法人日本社会福祉学会定時社員総会

「定款」第29条の規定に基づいて、「2018年度定時社員総会」を第66回春季大会に併せて開催した。出席代議員は、129名（委任状87名含む）であった。審議事項および報告事項は、以下の通りである。

開催日時：2018年5月27日（日） 10：00～11：45

開催会場：東京通信大学 新宿駅前キャンパス（コクーンタワー）21階211教室

審議事項

1. （一社）日本社会福祉学会 2017年度事業報告・決算・監査報告について
2. （一社）日本社会福祉学会第6期役員承認について
3. （一社）日本社会福祉学会研究倫理規程の制定及び（一社）日本社会福祉学会研究倫理指針の廃止について
4. （一社）日本社会福祉学会 2018年度事業計画及び当初予算について
5. その他

報 告

1. 第5期代議員選挙について
2. 第6期役員候補者選挙について
3. 研究倫理に関する検討委員会からの報告
4. 大会のあり方検討委員会からの報告
5. 若手・女性研究者に対する支援検討委員会からの報告
6. その他

3. 理事会

2018年度は、学会の諸課題を検討し、学会運営を円滑に遂行するために6回開催した。役員構成は、別表-①の通りであり、審議事項は以下の通りである。（報告事項は除く）

第1回理事会（2018年5月26日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 2018年度予算案の変更について
3. 2017年度事業報告、決算報告および監査報告（理事会 ML 審議済）
4. 共著論文に学会賞奨励賞（論文部門）を授与する際の手続き内規について
5. 一般社団法人日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』投稿要領の改定について
6. 研究倫理規程に違反する行為申立書の改定について
7. 一般社団法人日本社会福祉学会委員会規程の改定について
8. 一般社団法人日本社会福祉学会旅費規程申し合わせ事項について
9. 日本ソーシャルワーク教育学校連盟の担当理事交代について
10. その他

第2回理事会（2018年5月27日開催）

審議事項

1. 会長・副会長の選出
2. 理事の役割分担について
3. 委員会の委員について
4. その他

第3回理事会（2018年7月21日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 若手・女性研究者に対する支援検討委員会規程の制定について
3. 第68回（2020年度）秋季大会開催校について
4. 広報委員会からの提案について
5. その他

第4回理事会（2018年9月7日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 2019年度業務委託契約について
3. 激甚災害で被災した会員の年度会費軽減措置について
4. 「一般社団法人日本社会福祉学会旅費規程」の改定について
5. その他

第5回理事会（2018年12月8日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 「一般社団法人日本社会福祉学会旅費規程」の改定について
3. 「一般社団法人日本社会福祉学会謝金支払い内規」の改定について
4. 「一般社団法人日本社会福祉学会フォーラム開催に関する申し合わせ事項」の制定について
5. 2019年度第16回日本社会福祉学会フォーラムの開催地域ブロックについて
6. SCS研究協議会 議員連盟の設立に向けての対応について
7. その他

第6回理事会（2019年3月2日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 2019年度事業計画案および予算案について
3. 2019年度定時社員総会での名誉会員の推挙について
4. 2019年度定時社員総会の議題について
5. 全国大会運営委員の委嘱および解嘱について
6. 2019年度日本社会福祉学会第16回フォーラムについて
7. 英文誌の現状と問題点への対応策（案）について
8. 韓国社会福祉学会自由研究発表者の選定について
9. その他

4. 運営委員会

事業計画を踏まえ事業状況を確認すると共に、各種委員会から提案された課題・報告事項、事務局会議からの課題・報告事項を確認、整理するために、各回の理事会に先立ち、会長、副会長、総務担当理事、研究担当理事、財務担当理事、機関誌編集担当理事をメンバーとする運営委員会を開催した。

5. 監査

定款第20条に基づいて、2018年度上半期の監査を11月28日及び12月2日に実施し、12月8日開催の理事会で業務状況及び予算執行状況について報告を行った。また、2018年度全体の監査を2019年4月22日に実施し、理事会および定時社員総会にて、法人の業務および財産状況の報告を行った。

6. 各種委員会の活動（委員会構成は別表一②）

1) 大会運営委員会

1. 2018年度において推進した事業

(1) 第66回（2018年度）春季大会の開催

テーマ：外国人への支援～多文化共生社会とソーシャルワーク～

月 日：2018年5月27日（日）

会 場：東京通信大学新宿駅前キャンパス

参加者：約190人

(2) 第66回（2018年度）秋季大会の開催

テーマ：21世紀の社会福祉と「運動性」

月 日：2018年9月8日（土）・9日（日）

会 場：金城学院大学

参加者：約700人

(3) 第15回日本社会福祉学会フォーラムの開催

テーマ：軋む社会とセーフティネット—転げ落ちない社会の構築を目指して

月 日：2019年3月9日（土）

会 場：北星学園大学

参加者：約 50 人

(4) その他

委員会の開催（年 5 回）

2. 現在、検討している事項

(1) 第 67 回（2019 年度）春季大会の内容最終調整

テーマ：ソーシャルワークの価値再考―「個人の尊厳」の根拠をどこに求めるか―

月 日：2019 年 5 月 26 日（日）

会 場：東洋大学白山キャンパス

(2) 第 67 回（2019 年度）秋季大会の準備

テーマ：共生社会の構築に向けて～自立と多様性の共存

月 日：2019 年 9 月 21 日（土）・22 日（日）

会 場：大分大学旦野原キャンパス

(3) 第 16 回学会フォーラムの内容検討

月 日：2019 年 11 月 30 日（土）※予定

会 場：日本福祉大学東海キャンパス（中部地域ブロックとの共催）

(4) 第 68 回（2020 年度）秋季大会の準備

月 日：2020 年 9 月 12 日（土）・13 日（日）※予定

会 場：東北福祉大学

3. その他（課題等）

大会のあり方検討会の報告の提言のうち、第 67 回秋季大会で実現できなかったものについて、引き続き検討する。

2) 学会賞審査委員会

1. 2018 年度において推進した事業

(1) 学会賞の選考について

業績審査は 2017 年 1 月から 12 月までに刊行された図書及び論文を審査した。

①審査対象研究業績

2017 年 1 月から 12 月までの刊行された研究業績の内、自薦・他薦された図書（10 点）以外に、国立国会図書館到着発送情報において社会福祉学に関わる文献として該当する 3,541 点を選び、かつそれらが日本社会福祉学会員の対象業績であるかどうかをチェックした 25 点を抽出した。また、アマゾンリサーチを活用し、「社会福祉（2017 年刊行）」で検索した結果、上記検索図書以外に会員業績 9 点を抽出することができた。その他、上記のいずれにも該当しないが、委員より推薦のあった 1 点を審査対象に加え、結果として、第 1 次審査委員会へ提案された審査対象著書は合計 45 点になった。

しかし、上記の図書にはルポルタージュや翻訳書、随想、テキストなども含まれており、目次や図書紹介、概要等を検討した結果、最終的に 40 点を第 1 次審査対象著書とすることを決

定した。

論文部門は、推薦のあった3本と、それ以外に2017年に本学会機関誌（第57巻4号、第58巻1～3号）に掲載された論文28本の合計31本を対象論文として審査することにした。

②審査の経緯

◆第1回審査委員会（2018年3月18日開催）

上記の審査対象の研究業績について審査を行った。審査項目は、①研究の意義、視点、方法の明確性、②記述の明晰性、記述表現の妥当性、③先駆性、開拓性、独創性、④研究の完成度、成果度、⑤研究実践上の貢献度の5項目とし、各項目の5点満点で評価することを確認した。

第1次審査を行う著書40点について、1点につき2人の審査委員を選び、上記の5項目に焦点を当て審査することにした。最終的には審査委員ごとに9冊から12冊の審査対象図書が割り当てられた。また、自由記述でコメントを付することにした。

論文部門についても著書と同様に審査を行うこととし、審査委員ごとに8本から10本の論文を担当することになった。

◆第2回審査委員会（2018年5月27日）

第1次審査対象図書の査読結果を報告し、合計50点満点のうち、概ね40点以上の図書を第2次審査対象著書とすることにし、40点未満の図書についても1冊ずつ評価を行った結果、4点を第2次審査対象図書に選定した。論文は4本の論文を第2次審査対象とした。

◆第3回審査委員会（2018年7月16日）

第2次審査対象著書4点、対象論文4本を審査委員全員で評定し、各業績に対してコメントを記載したものを共有した。いずれも評価は高いものであったが、総括的審査の結果、全会一致で以下の授賞候補作が決定し、2018年7月21日開催の第3回理事会にて授賞候補作の理事会承認を得た。

○奨励賞（単著部門）

駒崎 道 会員『GHQ「児童福祉総合政策構想」と児童福祉法 一児童福祉政策における行政間連携の歴史的課題』（明石書店）

永野 咲 会員『社会的養護のもとで育つ若者の「ライフチャンス」 一選択肢とつながりの保障、「生の不安定さ」からの解放を求めて』（明石書店）

(2) 学会賞授賞式について

2018年9月8日、第66回日本社会福祉学会秋季大会（於：金城学院大学）において授賞式が行われ、白澤政和委員長の挨拶及び経過報告がなされた後に、金子光一会長から奨励賞を2名の会員に対して授与した。

(3) 共著論文に学会賞奨励賞（論文部門）を授与する際の手続き内規の設置について

奨励賞（論文部門）が連名である場合の共著者の同意に関する内規及び同意書について協議を重ね、2018年10月1日より施行された。2019年度の学会賞審査対象図書推薦募集の際に会員への周知を行った。

3) 研究倫理委員会

1. 2018年度において推進した事業

(1) 研究倫理案件への対応

①研究倫理委員会構成

委員長：秋元美世（理事）

委員：都築光一（理事）、荒井浩道（理事）、小松理佐子（会員）、平田厚（会員）

②研究倫理案件発生における委員会対応

◆2018年度は研究倫理案件が発生しなかったため委員会召集は行っていない。

◆第66回秋季大会（於：金城学院大学）における学会報告についての相談・協議を行った。

(2) 問題への対応を通して研究倫理規程および研究倫理委員会規程の精査・検討

4) 国際学術交流促進委員会

1. 2018年度において推進した事業

(1) 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

1) 留学生と国際比較研究のためのワークショップの実施

開催日時：2018年9月8日（土）10：00～12：00

開催場所：金城学院大学 N2 号棟 111 教室

参加者数：約 60 名

テーマ：韓国・中国における社会福祉研究の最新動向と国際比較研究の現状

発題者：韓国社会福祉学会代表：鄭茂晟

中国社会学会社会福祉専門研究委員会代表：房莉傑

コーディネーター：国際学術交流促進委員会委員 阪口春彦（龍谷大学短期大学部）

※ワークショップ終了後にランチ・ミーティングを開催

2) 地域部会での留学生のための事業推進協力

関西地域ブロック：若手研究者のためのワークショップ（留学生ワークショップ）

開催日：2019年1月26日（土）

開催場所：同志社大学良心館

(2) 東アジア諸国との連携及び学術交流・推進事業

1) 韓国社会福祉学会・中国社会学会社会福祉専門研究委員会との学術交流・推進事業

①日・中・韓三カ国協議

開催日時：2018年9月7日（金）

開催場所：ホテル名古屋ガーデンパレス会議室

協議事項：学術交流「覚書」の確認

次期開催国である中国からの提案について、等

出席者（日本）：金子光一会長、木原活信副会長／国際学術交流促進委員会委員長、

坪洋一事務局長、本郷秀和理事／国際学術交流促進委員会委員

出席者（韓国）：崔元奎会長（全北大学）、鄭茂晟副会長（次期会長／崇實大学）

出席者（中国）：彭華民（理事長）

各国の国際委員

②2018年度韓国社会福祉学会春季学術大会への派遣：個人自由研究発表者として参加

開催月日：2018年4月20日（金）、21日（土）

開催場所：シンハン大学 Shinhan University

派遣者：5チーム6名（①中寫洋、②松村智史、朴在浩、③高橋康史、④山脇敬子、⑤川池智子）

③中国社会学会社会福祉研究専門委員会「東アジア社会福祉フォーラム」への派遣：個人自由研究発表者として参加

開催月日：2018年10月12日（金）～10月14日（日）

開催場所：西華大学（中国四川省成都市）

派遣者：2チーム3名（①楊慧敏、②川池智子、川池秀明）

④2019年度韓国社会福祉学会春季学術大会への個人自由研究発表者審査

2018年11月12日募集、12月17日締め切り、1月審査結果発表

⑤韓国、中国からの個人自由研究発表者の受け入れ

韓国社会福祉学会

- ・尹在榮（三育大学校）、蘇珍伊（中部大学）、朴贊五（ソウル障害者自立生活センター）
「知的障害者の支援欲求の構造的概念化—主ケア提供者の認識を中心に—」
- ・丁嬉瑛（梨花女子大学校／崇實サイバー大学校）、元亨重（梨花女子大学校）
「イギリスの個人予算制度に対する探索及び韓国の老人生活体育サービスへの応用可能性に対する研究」

中国社会学会社会福祉研究専門委員会

- ・張繼元（中国華東師範大学）
「中国の高齢者介護事業の影響要因—『中国民政年鑑』に基づく実証研究から—」
- ・斎少傑（中国・山西医科大学・人文社会科学学院）
「中国における少子化と子育て支援—子育て環境の変化と課題を中心に—」
- ・万国威（南開大学）
「中国児童虐待問題には大規模の財政投入が必要なのか？」
- ・謝曉霞（西南財經大学社会發展研究院）、黄建忠（ラトガース大学／西南財經大学社会發展研究院）、周壺利（西南財經大学社会發展研究院）、郭雨奇（西南財經大学社会發展研究院）、郝峰（西南財經大学社会發展研究院）
「中国における留守児童問題と人工知能ロボットの導入」

(3) 国際学術シンポジウム開催

開催日時：2018年9月9日（日）9：30～12：00

開催場所：金城学院大学 N2号棟 110教室

テーマ：韓国・中国・日本における社会福祉運動の発達とその特徴

発題者：韓国社会福祉学会代表：崔元奎（全北大学／韓国社会福祉学会会長）

中国社会学会社会福祉専門研究委員会代表：劉軍強（中山大学）

日本社会福祉学会代表：永岡正己（日本福祉大学名誉教授）
コーディネーター：国際学术交流促進委員会委員 岡田忠克（関西大学）

(4) 国際学术交流促進委員会開催

第1回 2018年7月13日 15:30～17:00 （於：東京都 国際文献社会議室）
第2回 2019年1月14日 18:00～20:00 （於：京都市 同志社大学）

2. 現在、検討している事項

- (1) 留学生の研究活動に対する学会としての取り組みについて（情報収集と提供）
第67回秋季大会での留学生・国際比較研究ワークショップ内容・実施案について
(2) 日中韓国際学術シンポジウム開催実施案について ※韓国・中国への案内連絡調整

3. その他（課題等）

アジア諸国、欧米諸国との学术交流のあり方の検討

5) 広報委員会

1. 2018年度において推進した事業

(1) 広報委員会の開催

第1回広報委員会

開催日時：2018年7月1日 10:00～12:00

開催場所：上智大学

協議内容：①今年度の計画と課題、分担の整理、②学会HPモバイル化について、③HPの国際化、④対外的広報の強化、⑤学会ニュース企画案

第2回広報委員会

開催日時：2018年9月9日 12:00～13:00

開催場所：金城学院大学

協議内容：①学会ニュースについて、②HPのリニューアルについて

第3回広報委員会

開催日時：2018年10月6日（日）18:30～21:00

開催場所：駒澤大学

協議内容：①HPのリニューアルについて、②HPの国際化、③対外的広報の強化について、④学会ニュースについて

第4回広報委員会

開催日時：2019年3月14日（木）17:00～21:30

開催場所：東洋大学

協議内容：①HPの国際化の進捗状況の確認、②学会ニュースについて、③HPのリニューアルについて、④HP業者の選定プレゼンと決定会議

(2) 学会ホームページの充実化とリスク管理の検討

ホームページの充実をはかるために、様々な角度で分析を行い、リニューアルに向けて、3

社から見積書を取得した。各業者からの発表会を開催し、広報委員会および運営委員会にて委託業者の選定を行った。

(3) ホームページの国際的な対応

学会ホームページの中国語、韓国語のサイトの作成、そして英文ページの追加を行った。

(4) 学会ホームページの運営・管理

新着情報の掲載と情報の更新を行った。

(5) 「広報委員会だより」の発行 ※年5回の一斉送信

学会の最新情報および関連団体の動向などを中心に配信し、事務局業務関連連絡は、「事務局からのお知らせ」として学会事務局が随時送信した。

第39号(2018年4月27日)、第40号(2018年7月23日)、第41号(2018年9月5日)、第42号(12月5日)、第43号(2019年2月22日)

(6) 「学会ニュース」の発行 ※ホームページ上に年3回掲載

最新の情報や関係団体の動向等、タイムリーな情報提供を行った。

シリーズ・クローズアップは、「社会の潮流を読む」から「社会福祉学の未来への視座」にリニューアルした。現在クローズアップされている出来事を、社会学、法学や経済学等の他領域から俯瞰的に見たときにどのように見えるのか、社会福祉学の未来へのヒントとなるようなコーナーを目指している。

第78号(2018年7月6日)、第79号(2018年11月5日)、第80号(2019年2月4日)

2. 現在、検討している事項

- ・ホームページのリニューアルによって、アクセシビリティを充実させる。
- ・ホームページのリニューアルに取り組むことで、対外的広報の強化をする。
- ・ハッキングなどに備えたリスク管理を強化するための対応策を検討する。
- ・引き続き、国際的に対応できるようにホームページを充実させる。中国や韓国の研究者に必要な情報を掲載できるように、国際学术交流促進委員会と連携を図り、対応する。

6) 機関誌編集委員会

1. 2018年度において推進した事業

(1) 学会機関誌『社会福祉学』刊行

①機関誌編集委員会活動

i. 機関誌編集委員会構成

2018年度には以下の16名で機関誌編集委員会を構成し、業務にあたった。

委員長：柴田謙治(理事)、副委員長：今井小の実(理事)、山田壮志郎(理事)

委員：石川時子、岩崎 香、金子 充、川島ゆり子、空閑浩人、倉持史朗、

小泉広子、小林 理、斉藤雅茂、新保幸男、相馬大祐、村田文世、山井理恵

ii. 機関誌編集委員会開催

2018年度には編集委員会を計4回開催した。

開催日：7月7日（土）、10月7日（日）、1月13日（日）、3月22日（金）

また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、5月、8月、11月、2月に実施した。

iii. 機関誌拡大編集委員会開催

査読委員を含めた拡大編集委員会を、第66回秋季大会にあわせて開催した。

開催日時：9月8日（土）11：00～12：00

開催会場：金城学院大学 N1号館 406教室

出席者数：査読委員23名 編集委員11名 計34名

②機関誌「社会福祉学」刊行

2018年度には和文誌を4回（59-1/59-2/59-3/59-4）発行した。なお英文誌「Japanese Journal of Social Welfare」については、論文3本の投稿があったが、いずれも掲載不可となった。

（2）地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックによる機関誌の刊行については、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

2. 現在、検討している事項

英文誌のあり方について、運営委員会、理事会と協議している。

7) アーカイブ化推進委員会

1. 2018年度において推進した事業

2018年度は、学会機関誌のデジタル化作業の欠号2巻の必要性の可否を編集委員会と調整のうえ行った。その結果、欠号2巻との認識はJ-Stageを利活用した結果である可能性が高く、本来2巻そのものが存在しない可能性が出てきたため確認作業と調査を継続する。

他方で、J-Stageを利活用した結果、論文データはデジタル保存されている状況だが、それ以外の学会機関誌情報についてはデジタル化されていないことが判明した。

学会誌の論文以外の記事について、デジタル化を試行した段階で止まっていたが、3月末の時点での進捗状況は、第10号までの画像化を実施した。

2. 現在、検討している事項

2019年度は、2018年度の作業を継続しながら学会機関誌の未デジタル化部分の作業についても検討し、作業を進める。また、過去の大会報告要旨集や要旨集廃止後のCD-R版の情報についても調査し、アーカイブズ対象の可否について検討する。未実施の写真資料の分類整理についてその方法を検討しでき得る限りのデジタル化作業に着手する。

3. その他（課題等）

アーカイブ化については、個人情報保護法との関連もあり関係委員会等とも連絡調整を進める。

8) 若手・女性研究者に対する支援検討委員会

1. 2018年度において推進した事業

(1) 委員会の開催（計7回開催）

開催日：2018年7月8日（日）、9月8日（土）、10月8日（月）、11月5日（月）、2019年1月5日（土）、2月18日（月）、3月11日（月）

(2) 一般社団法人日本社会福祉学会若手・女性研究者に対する支援検討委員会規程を作成した。

(3) 第66回秋季大会「若手研究者のためのワークショップ」（テーマ：学会における若手研究者支援について考える—近接学問領域の学会から学ぶ—）において、2017年度実施の「若手・女性会員の支援のあり方に関するアンケート調査結果」を踏まえて、本学会の取組みを報告した。

(4) 支援方策の具体化に向けた活動

- ・若手研究者支援の各地域ブロックの取組みについて、聴き取り調査を行った。
- ・学生会員の経済的支援の具体的提案に向けて、関係データを収集した。
- ・第67回秋季大会における「スタートアップ・ワークショップ（旧：若手研究者のためのワークショップ）」、「若手研究者交流会～NOVICE to EXPERT」の企画を行った。
- ・人文社会科学系学協会男女共同参画推進部会（GEAHSS）の活動に参加し、他学会との連携を図った。

2. 現在、検討している事項

- ・40歳以上で研究歴の浅い会員の置かれている現状と課題を明らかにし、支援方策の提言につなげる。
- ・女性会員に対する具体的な支援方策について検討する。
- ・学生会員の経済的支援として、年会費の減額、大会参加費（非会員を含む）の減免の具体的提案につなげる。

1. 2018年度において推進した事業

(1) 理事会の開催 (3回開催)

第1回：2018年5月7日

第2回：2018年7月6日 (理事会+研究活動委員会)、

第3回：2019年2月25日

(2) 北海道社会福祉学会第58回大会の実施

開催日時：2018年6月2日 (土)

開催場所：北星学園大学

参加者数：45名

基調講演：15:00～17:00

基調講演1 松本伊智朗 氏 「北海道子どもの貧困調査から見えるもの」

基調講演2 空閑浩人 氏 「地域におけるソーシャルワーク・ソーシャルワーカーの存在意義を問う」

(3) 北海道社会福祉学会総会

開催日時：2018年6月2日 (土) 14:30～15:00

開催場所：北星学園大学

出席者数：15名

議題：①報告事項

- 1) 2017年度 事業報告
- 2) 2017年度 収支決算報告
- 3) 2017年度 監査報告

②議決事項

- 1) 2018年度事業計画 (案)
- 2) 2018年度予算 (案・暫定)

(4) 院生・若手研究会

第1回

日時：2018年7月30日 (月) 18:30～20:00 (開始18:45)

会場：北海道医療大学 参加者：6名

参加者の近況と今年度の活動の方向性について確認した。

第2回

日時：2018年12月19日 (水) 19:00～21:00

会場：小会議室/セミナールーム (東カン札幌駅前ビル) 参加者：6名

参加者から今後の研究活動として興味のあるテーマを発題してもらい、研究として進めていくための意見交換を行った。

第3回 (健康科学セミナー合同実施)

日時：2019年3月4日 (月) 19:00～20:30

会 場：北海道医療大学札幌サテライトキャンパス 参加者：7名（内研究会関係者5名）

講 演：岡田栄作氏（浜松医科大学 助教）

「ビックデータを活用した介護予防政策の実施と効果の検証～保険者の実情に合った政策を実施するためには～」というテーマでの報告と質疑応答が行われた。

第4回（日本社会福祉学会関東地域ブロック研究大会参加交流）

日 時：2019年3月10日（日）

会 場：駒澤大学 参加者4名（研究発表者2名 大会参加者2名）

道内院生・若手研究者の研究交流の場を広げることを目的に関東地域ブロックの研究大会に参加し、研究交流を行った。参加者からも2名が発表を行った。2名の参加者に対し、研究交流の旅費助成を行った。

（5）合評会

著者・藤高和樹氏を招いた『ジュディス・バトラー：生と哲学を賭けた闘い』合評会

日時：3月29日（金）18：00～20：00

場所：北星学園大学

参加者15名

（6）機関誌編集委員会

編集委員会：2回開催 2019年1月29日、2019年3月11日

『北海道社会福祉研究』第39号（電子ジャーナル）発行

2019年3月発行 論文2本 研究ノート1本 海外調査報告1本 調査報告1本

【論文】

「養介護施設従事者等による深刻な高齢者虐待の特徴と要因」

松本 望（北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科）

「母子生活支援施設を退所した子どもの生活」

熊谷良介（北海道大学大学院博士課程）

【研究ノート】

「福祉人類学における福祉の現場のエスノグラフィーの意義

－2000年以降の主要な研究のレビューを通じて－

福島令佳（札幌診療福祉専門学校）

【海外調査報告】

「地域における高齢者主体の活動についての考察 －デンマークの高齢者の活動をとおして－」

銭本隆行（日本医療大学）

【調査報告】

「高等教育機関に所属する学生の抑うつ症状と首尾一貫感覚（Sense of Coherence）およびレジリエンスとの関連 －性別検討－」

米田龍大（北海道医療大学大学院看護福祉学研究科 修士課程）
志渡晃一（北海道医療大学大学院看護福祉学研究科）
松本 望（北海道医療大学看護福祉学部）

(7) 研究活動担当理事・委員会活動

研究活動委員会 2回

第1回：2018年6月20日（研究活動委員会理事のみ）

第2回：2018年7月6日（再掲；理事会）

2. 現在、検討している事項

- ・2019年下半期に学会シンポジウム・フォーラムを札幌市以外のエリアで検討
- ・遠隔地会員の参加促進について

3. その他（課題等）

札幌圏以外の遠方の会員の学会参加の促進が課題である。

東北地域ブロック 2018年度 事業報告書

1. 2018年度において推進した事業

(1) 実施事業

- 1) 研究大会
- 2) 研究誌の発行
- 3) ニュースレターの発行
- 4) 幹事会の開催

(2) 研究大会

- 1) 開催年月日 2018年7月28日（土）
- 2) 開催会場 東北福祉大学ステーションキャンパス
- 3) 開催テーマ 被災地における子ども支援
- 4) 開催内容 ①基調講演 テーマ

「震災がきて、救われた」こんな言葉を、二度と聞かなくてよい地域に

講師 NPO 法人 TEDIC 代表理事 門間 優 氏

②研究倫理概要説明 担当 東北福祉大学 都築光一

③自由研究発表 15題

(3) 研究誌の発行『東北の社会福祉研究』第14号発行

(4) ニュースレターの発行

第22号（2018年6月発行）

(5) 幹事会の開催

第 1 回 (2018 年 5 月)

第 2 回 (2018 年 7 月)

2. 現在、検討している事項

- 1) 2019 年度は、東北部会発足 60 周年であるので、その記念事業の企画内容が課題となっている。

関東地域ブロック 2018 年度 事業報告書

1. 2018 年度において推進した事業

(1) 運営委員会の開催

- 第 1 回 (2018 年 6 月 4 日)、第 2 回 (9 月 2 日)、第 3 回 (11 月 5 日)、第 4 回 (2019 年 3 月 10 日) の計 4 回開催 (於: 駒澤大学駒沢キャンパス)
- 各部会活動の実施・運営 (広報委員会、機関誌『社会福祉学評論』編集委員会、大会担当委員会、その他)

(2) 研究大会の開催

- 2018 年度研究大会を 2019 年 3 月 10 日 (日) に開催 (於: 駒澤大学駒沢キャンパス)
 - ・大会テーマ: 持続可能な社会を支える“脚力ある人材”の育成
 - ・ワークショップ: 「どう進める? わたしの研究活動」
 - ・基調講演: 「Society for GOOD~Purpose Driven な組織へのコンテキスト転換~」
 - ・シンポジウム: ソーシャルワーカーの現状と育成
 - ・自由研究報告: 19 演題 (研究報告部門 6 題、萌芽的研究報告部門 10 題、実践報告部門 3 題) (なお、研究報告部門・萌芽的研究報告部門には、北海道ブロック会員による報告各 1 題を含む)
 - ・研究大会奨励賞: 該当者なし

(3) 機関誌『社会福祉学評論』の刊行

- ・査読・編集体制の整備を継続して実施
- ・2018 年度の投稿数は 22 本
- ・電子ジャーナルで、2018 年度に論文 9 本を刊行

(4) 広報活動

- ホームページ
 - ・電子ジャーナル化された機関誌『社会福祉学評論』の一般公開をメインに、研究大会抄録集、ニューズレター等を PDF で掲載。その他、関東地区で開催の公開講座・講演会、博士論文公開審査、最終講義の情報等を紹介するページを設置
 - ・一日あたりのアクセス数は 200~300 件程度

○会員情報管理システムによるメール配信サービスと連携し、情報発信を実施

- ・メールマガジン Ver.9 を 2019 年 3 月 4 日に配信

○ニューズレター

- ・No.21 を 2019 年 3 月 5 日に紙媒体で発行し、関東部会会員に郵送

2. 現在、検討している事項

- ・機関誌『社会福祉学評論』の査読・編集体制について継続的に検討
- ・各部会活動の連絡・調整の促進
- ・地域ブロック間の交流

中部地域ブロック 2018 年度 事業報告書

1. 2018 年度において推進した事業

(1) 研究例会の開催

事業計画に基づき、4 月 21 日（土）に、愛知産業労働センター（ウインクあいち）にて、2018 年度研究例会を開催した。内容は以下の通り。

①大学院生・若手研究者のための勉強会

- ・テーマ：修士課程修了後のキャリア形成
- ・話題提供者：中澤未美子氏（名古屋大学ハラスメント相談センター助教）

②自由研究発表

- ・小島俊樹（日本福祉大学大学院修了生）「地域若者サポートステーションと定時制高校が連携する就労支援の有効性」

③シンポジウム「新しい社会運動と社会福祉」

1) 記念講演「社会運動とソーシャルアクション」

講師：湯浅 誠氏（法政大学・社会活動家）

2) パネルディスカッション

- ・薬師実芳氏（特定非営利活動法人 ReBit）
- ・仁藤夢乃氏（女子高生サポートセンター Colabo）
- ・高良麻子氏（東京学芸大学）
- ・コーディネーター：山田壮志郎氏（日本福祉大学）

(2) 機関誌『中部社会福祉学研究』第 10 号の刊行

2019 年 3 月に第 10 号を刊行する。上記の春の研究例会の内容を掲載するほか、投稿論文・研究ノートに掲載する（研究ノート 1 本、論文 3 本の投稿があった）。また、第 10 号を記念した論考を掲載予定。日本社会福祉学会ウェブサイトの中部ブロックページに掲載する。

(3) 「院生・若手研究者のための勉強会」の開催

上記の通り、4 月 21 日（土）の研究例会に合わせて開催した。

(4) その他

部会の事業運営について協議するための幹事会を3回(6月、9月、1月)開催した。また、部会内に、①機関誌、②院生・若手研究者のための勉強会、③研究例会について検討する委員会をそれぞれ設置し、適宜会議を行った。

2. 現在、検討している事項

2019年度の研究例会を2019年4月20日に開催する予定にしている。

関西地域ブロック 2018年度 事業報告書

1. 2018年度において推進した事業

(1) 理事会の開催

- ・第1回 日時：2018年10月29日(月) 19:00~21:00
場所：同志社大学今出川キャンパス
議題：1. 2018年度年次大会について
2. 若手研究者・院生情報交換会について
3. 機関誌について
4. 役員体制について
5. その他

- ・第2回 日時：2019年3月6日(水) メーリングリストによる持ち回り審議
議題：1. 2018年度年次大会について
2. 2019年度 事業計画書(案)について
3. 2019年度 予算(案)について
4. 2018年度 事業報告(案)について
5. 2018年度 決算報告(案)について
6. 機関誌『関西社会福祉研究』4号について
7. その他

- ・その他メーリングリストを活用して、必要に応じて情報を共有し、意見交換をした。

(2) 若手研究者・院生情報交換会

- ・第43回若手研究者・院生情報交換会(日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会)
テーマ：実践的社会福祉調査論—経験から学んだリサーチ・リテラシーの共有—
日 時：2018年12月22日(土) 14:00~17:00
場 所：同志社大学今出川キャンパス良心館 RY408教室
【第1部】14:00~15:45 パネルディスカッション
テーマ：「実践的社会福祉調査論—経験から学んだリサーチ・リテラシーの共有」

- ・発題者（兼コーディネーター）：樽井康彦（龍谷大学准教授）
- ・パネリスト：與那嶺司（神戸女学院大学教授）
- ・パネリスト：増田和高（武庫川女子大学講師）

【第2部】16：00～17：00 質疑応答・クロストーク・意見交換

- ・第44回若手研究者・院生情報交換会（日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会）
テーマ：研究という世界に旅立つ若手研究者の第一関門「学会誌『査読』」をクリアするには？

ー投稿者レスポンスの重要性に焦点を当ててー

日時：2019年1月26日（土）14：30～17：40

場所：同志社大学今出川キャンパス良心館 RY402 教室

14：30～14：40 <開会挨拶>

14：40～15：20 <基調講演>

小野達也（大阪府立大学人間社会システム科学研究科教授）

「学会誌の『査読』への向き合い方ー若手・外国人の研究者・院生の視点も踏まえて」

15：20～17：30 <報告>

「査読という対話をとおして論文が生まれるということー歴史研究の立場から」

佐草智久（立命館大学大学院先端総合学術研究科博士後期課程／日本学術振興会特別研究員 D2）

「質的研究における投稿者レスポンスの重要性と対応方法」

鄭熙聖（同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程）

「量的研究における投稿者レスポンスの重要性と対応方法」

高橋順一（同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程）

17：30～17：40 <総括>

（3）年次大会の開催

日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会 2018年度年次大会

テーマ：人口減少社会と社会福祉

開催日：2019年3月10日（日）

場所：関西大学 堺キャンパス A棟

主催：日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会

参加費：無料

プログラム

9：30 受付開始

10：00～12：00 自由研究発表

12：00～12：45 昼食・休憩

12：45～13：15 日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会総会

13：20～13：30 会長挨拶・開催校挨拶

13：30～14：30 基調講演「過疎地域の実情から見える社会福祉の課題」

小松 理佐子氏（日本福祉大学教授）

14：40～16：30 シンポジウム

【テーマ】「人口減少社会と社会福祉」

【シンポジスト】上野山栄作氏（株式会社オレンジライフ社長・CEO）

所 道彦氏（大阪市立大学教授）

山縣文治氏（関西大学教授）

【コメンテーター】小松理佐子氏

【コーディネーター】所めぐみ氏（関西大学教授）

16：30

閉会

（4）機関誌の発行

機関誌『関西社会福祉研究』第5号 2019年3月発行

中国・四国地域ブロック 2018年度 事業報告書

1. 2018年度において推進した事業

（1）部会委員会の開催

中国・四国ブロックの会員より15名の役員を選任し、委員会を3回開催した。

①6月17日（日）

②12月2日（日）

③3月9日（土）

場所は①③は岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館。②はおかやま西川原プラザ

（2）中国・四国地域ブロック第50回記念香川大会の開催

①開催日時場所等

7月14日（土）担当校：四国学院大学

②テーマ「障害の有無を越えて～共生社会のリアリティを問う～」

③内容 基調講演「スティグマへの抵抗：障害と依存症を例に」

講師 熊谷晋一郎（東京大学 先端科学技術研究センター）

シンポジウム「『共生社会』のリアリティを問う」

（3）中国・四国地域ブロック総会の開催

①開催日時場所等

7月14日（土） 12：10～13：00

四国学院大学

②議案

第1号議案 2017年度事業報告および決算、監査報告

第2号議案 2018年度事業計画（案）および予算（案）

③報告

1 部会委員会委員について

2 機関誌『中国・四国社会福祉研究』について

3 2018年度社員総会報告

- 4 2019年度地域ブロック大会
- 5 その他

(4) 中国・四国地域ブロック特定課題研究

新たに「中国四国地方での福祉人材確保問題」をテーマに課題研究を行うこととした。その最初の取り組みとして、3月9日に特定課題研究会「中国四国地方での福祉人材確保問題 日本人の就労状況と外国人の受入れの課題」を開催した。学会員2名の報告と、現場から岡山県社会福祉法人経営者協議会副会長の福原文徳氏の報告を受けて、参加者による討論を行った。

(5) 中国・四国地域ブロック会報の発行

- ①発行回数 年2回(8月10日、2月15日)
- ②内容 担当理事による巻頭言、地域ブロック大会等の案内、機関誌投稿の案内

(6) 中国・四国地域ブロック機関誌の編集

『中国・四国社会福祉研究』第6号、第7号の発刊に向けて、原稿を募集し、編集作業を行った。

2. 現在、検討している事項

- ①会員減少が顕著になっている。近年、ブロック内で社会福祉士養成を廃止する大学が相次いでおり、減少に拍車がかかる恐れがあり、対策が求められている。
- ②学会の取り組みに呼応して、若手研究者や女性研究者の支援がブロックとしても求められている。

3. その他(課題等)

- ①機関誌の発行が遅れがちになっている。投稿について、査読者確保が困難であり、発行の遅れの原因となっている。
- ②ブロック大会は開催校の努力により、一定数を確保できているが、それは開催校の社会福祉関係者への呼びかけが功を奏しているからであって、会員の参加が必ずしも活発ではない状況は続いている。会員による大会の活性化が必要である。
- ③各大学での多忙化などのより、ブロック委員会の出席率の改善が進んでいない。

九州地域ブロック 2018年度 事業報告書

1. 2018年度において推進した事業

(1) 運営委員会の開催

2018年度からの新運営委員は5名(全員、留任)。また、新事務局体制として福岡県立大学事務局(主に、会計業務担当)および鹿児島国際大学事務局(その他の業務(総会・運営委員会等準備・開催、機関誌編集・発行、他))となった。

運営委員会の開催は次の通りである。

第1回運営委員会

開催日時: 2018年6月9日(土) 11時~12時30分

開催場所：沖縄国際大学 13 号館 1 階研究所会議室-1

議題：定期総会資料の確認等

第 2 回運営委員会

開催日時：2018 年 9 月 20 日（木）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：機関誌査読計画等の検討

第 3 回運営委員会

開催日時：2018 年 9 月 28 日（金）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：学会地域ブロック担当者委員会の報告等

第 4 回運営委員会

開催日時：2019 年 12 月 10 日（月）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：学会第 5 回理事会の報告等

第 5 回運営委員会

開催日時：2019 年 1 月 17 日（木）・18 日（金）・25 日（金）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：次年度事業計画書および予算書の検討

第 6 回運営委員会

開催日時：2019 年 3 月 3 日（日）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：学会第 6 回理事会の報告等

第 7 回運営委員会

開催日時：2019 年 4 月 6 日（土）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：今年度事業報告書および決算書の検討

※別途、事務局会議を適宜実施

(2) 研究大会（第 59 回）の開催

- ・開催校：沖縄国際大学（沖縄県宜野湾市）
- ・大会テーマ：「地方における福祉課題の構造と方向性
～沖縄社会の現状と課題を通して考える～」
- ・開催日：2018 年 6 月 9 日（土）～10 日（日）
- ・基調講演：テーマ「沖縄県の地域性と社会福祉を取り巻く状況」
基調報告者 保良昌徳氏（沖縄国際大学教授）
- ・シンポジウム：「沖縄社会の現状に見る地方の福祉課題の特徴と方向性」

<シンポジスト>

上地武昭氏（沖縄大学教授）

大湾明美氏（沖縄県立看護大学教授）

岩田直子氏（沖縄国際大学教授）

本村 真氏（琉球大学教授）

<コーディネーター>

上原健二氏（沖縄女子短期大学准教授）

(3) 2018年度定期総会の開催

- ・開催日：2018年6月10日（日）
- ・会場：沖縄国際大学（沖縄県宜野湾市）
- ・議事内容
 - 2017年度事業報告
 - 2017年度収支決算および会計監査報告
 - 2018年度事業計画
 - 2018年度予算
 - 報告事項（2018年度運営委員・事務局体制の紹介、他）

(4) 機関誌『九州社会福祉学第15号』の発行

- ・投稿論文数：論文8本
- ・論文掲載数：論文4本、研究ノート2本 計6本
- ・編集作業を次の手続きにより実施
 - ① 査読者（各論文2名）による査読結果に基づき、修正など投稿者に依頼
 - ② 修正された論文について編集委員会にて掲載の可否、掲載区分を決定。
投稿者に結果通知。
 - ③ 投稿者へ論文掲載料振込依頼文書発送
 - ④ 論文の校正
 - ⑤ 2019年3月に会員あて発送

2. 現在、検討している事項

- ・2019年6月開催予定の第60回研究大会（北九州市立大学）について
- ・九州地域ブロックの運営に関する規程等の再点検について

一般社団法人日本社会福祉学会 第6期(通算第27期) 役員担当業務一覧

別表-①

氏名	主たる担当業務	担当委員会委員等	備考
金子 光一	会長	運営委員会	社会政策関連学会協議会 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 (理事)
木原 活信	副会長 渉外担当(国外)	運営委員会 国際学術交流促進委員会 (委員長)	日本社会福祉系学会連合 (会長) ソーシャルケアサービス研究協議会
坪 洋一	総務担当	運営委員会 (事務局長)	事務局連絡会担当 社会学系コンソーシアム (副理事)
和気 純子	財務担当	運営委員会 全国大会運営委員会 地域ブロック担当者委員会 (委員長)	事務局連絡会担当 日本社会福祉系学会連合 (事務局長)
山縣 文治	研究担当	運営委員会 研究委員会 (委員長) 全国大会運営委員会 (委員長)	秋大会担当
岡部 卓	研究担当	研究委員会 学会賞審査委員会	
秋元 美世	研究担当	研究委員会 研究倫理委員会 (委員長)	
久保 美紀	渉外担当(国内)	若手・女性研究者に対する支援検討委員会 (委員長)	ソーシャルケアサービス研究協議会 人文社会科学系学協会男女共同参画推進 連絡会 (GEAHSS)
本郷 秀和	研究担当	研究委員会 全国大会運営委員会 国際学術交流促進委員会	フォーラム担当
柴田 謙治	機関誌担当	運営委員会 機関誌編集委員会(委員長)	
山野 則子	渉外担当(広報)	広報委員会 (委員長)	
今井 小の実	機関誌担当	機関誌編集委員会(副委員長) アーカイブ化推進委員会	
大谷 京子	研究担当・総務担当	研究委員会 全国大会運営委員会 (副委員長) 事務局次長	春大会担当 事務局連絡会担当
中村 和彦	地域ブロック担当	北海道地域ブロック担当 国際学術交流促進委員会	
都築 光一	地域ブロック担当	東北地域ブロック担当 研究倫理委員会	
荒井 浩道	地域ブロック担当	関東地域ブロック担当 研究倫理委員会	社会学系コンソーシアム
山田 壮志郎	地域ブロック担当	中部地域ブロック担当 機関誌編集委員会(副委員長)	
岡田 忠克	地域ブロック担当	関西地域ブロック担当 国際学術交流促進委員会	
杉山 博昭	地域ブロック担当	中国・四国地域ブロック担当 広報委員会	
岩井 浩英	地域ブロック担当	九州地域ブロック担当 全国大会運営委員会	
大島 巖	監 事		
牧里 毎治	監 事		

一般社団法人日本社会福祉学会 各種委員会構成

別表-②

委員会名	第6期委員会委員 (◎：委員長／○：副委員長)			
機関誌編集委員会	◎柴田 謙治 石川 時子 空閑 浩人 斉藤 雅茂 山井 理恵	○今井 小の実 岩崎 香 倉持 史朗 新保 幸男	○山田 壮志郎 金子 充 小泉 広子 相馬 大祐	川島 ゆり子 小林 理 村田 文世
学会賞審査委員会	◎白澤 政和 岡部 卓 三本松 政之	上野谷 加代子 永岡 正己	黒田 研二	小林 良二
広報委員会	◎山野 則子 杉山 博昭 福島 喜代子	有村 大士	小櫃 俊介	高山 恵理子
研究委員会	◎山縣 文治 大谷 京子	本郷 秀和	岡部 卓	秋元 美世
国際学術交流促進委員会	◎木原 活信 中村 和彦 郭 芳 包 敏	岡田 忠克 金 成垣 李 善恵	本郷 秀和 黒田 文	浅野 貴博 阪口 春彦
研究倫理委員会	◎秋元 美世 都築 光一	荒井 浩道	小松 理佐子	平田 厚
全国大会運営委員会	◎山縣 文治 本郷 秀和 窄山 太 都築 光一 山本 美香	○大谷 京子 和気 純子 柴田 学 塩村 公子 岡部 真智子	岩井 浩英 相澤 仁 石附 敬	柴田 謙治 廣野 俊輔 木下 武徳
地域ブロック担当者委員会	◎和気 純子 中村 和彦 岡田 忠克	都築 光一 杉山 博昭	荒井 浩道 岩井 浩英	山田 壮志郎
アーカイブ化推進委員会	◎元村 智明 今井 小の実	蜂谷 俊隆	橋本 理子	岡本 民夫
若手・女性研究者に対する 支援検討委員会	◎久保 美紀 越智 あゆみ 保正 友子	千葉 伸彦	中里 哲也	永野 咲